



いよいよ卒業の季節を迎えました。この1年、どの学校にも子ども達の歓声が響き、健やかに伸びゆく姿がありました。数多くの教育課題に取り組みつつ、日々子ども達の笑顔を支えてこられた先生方のご努力に心から敬意を表します。大変おつかれさまでした。



本年度末で校長職を退かれる方の中から3名のメッセージを2月号と3月号で掲載させていただきます。ご多用の中、快く寄稿していただきありがとうございました。

## 37年間を振り返って

丹波市立氷上中学校長

大槻隆浩

平成元年に採用され、春日中学校に赴任してから37年。中学校教員としての生活が終わろうとしています。これまで市内5つの中学校で勤務させていただきました。子どもたちへの対応に深く悩み、苦しい時期も多々ありましたが、多くの同僚に支えられ、今日まで歩みを進めることができました。若き日を振り返れば、独りよがりの強がり押し付けていた時期もあったと、今は反省と感謝の気持ちでいっぱいです。

教職4年目からは三田市から通勤しました。片道50キロを超える道のりもあり、通算の走行距離は、優に100万キロを超えました。「通勤が大変ですね。」と労いのお言葉をかけていただくこともありましたが、私にとって運転は苦痛ではなく、一人で冷静に考えを深めるためのかけがえのない時間でした。37年間無事故であったことも、この時間をストレスなく、前向きに過ごせた理由なのかもしれません。

長い年月を振り返ると、私は決して「自信に満ちた教員・管理職」ではありませんでした。むしろ、迷い、不安、葛藤と向き合い続ける毎日でした。自分を鼓舞して強がっていたため、周囲にはそう見えなかったかもしれません。重責を担うほど、正解や強さを求められ、迷いは深まるばかりでした。

しかし、今になって思えば、その「自信のなさ」にこそ価値があったのだと感じています。それは、共感力、相談力、丁寧さ、慎重さ等々。「本当にこれでいいのか」と問い直し続けた時間こそが、正解のない教育における私の「覚悟」と「責任感」だったように、今は感じています。

キャリアの節目を迎え、「自信がない」という状態は、人としてとても健全で自然な姿であり、むしろ私の「強み」であったと肯定的に捉えられるようになりました。

4月からは、趣味のことなどへ思いを馳せながら、景色を楽しみ、ゆったりとした気持ちで車を走らせたいと思います。

最後になりますが、これまでの出会いを通じてつながってくださったすべての方々に深く感謝申し上げます。長い間、本当にありがとうございました。

## 子どもの見立てを、学校組織の動きに

SCやSSWの問題行動への見立てや意見を学校組織全体の動きに反映させにくいことはありませんか。ケース会議の内容やSCの助言を校長が整理されて、全教員の理解と行動を強化して解決を進めた学校があります。作成資料を紹介しますので、ご参考ください。

A児への対応方針

「肯定的関わりの徹底」について

校内委員会

### 1. 目的

不適切（NG）行動は「注目行動」と理解し、全職員が肯定的・一貫した関わりで、「見てもらっている」ことを実感させ安心感を与える。事後対応から予防的対応にシフト。

### 2. 本人と確認したNG行動と代替りの予防行動

NG行動(僕を見て)	予防行動(ルール)
離室、脱走、物を投げる・壊す 人にあたる、勉強の邪魔をする 本人はNG行動を 「減らしたい、なくしたい」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝一でイラ<sup>2</sup>マックスなら避難所へ直行する</li> <li>・(イラ<sup>2</sup>メーター3を超えて) NG行動の前に逃げる</li> <li>・避難所(保健室、図書室、校長室)に移動する</li> <li>・先生に言って教室から出る</li> </ul>

### 3. 職員共通の関わり方と予防行動のルール

- ・特別な役割分担をせず全員が臨機応変に関わり、「見てもらっている」を実感させる。
- ・担任、授業者は、集団指導に注力するため躊躇せず「ヘルプ」を呼ぶ。学習権の保障。

行動、状態	対応の基本
眠る、読書	そっと見守る。
眉間緊張、帰りたい	前NG行動段階。避難所に移動する。(「ヘルプ」を呼ぶ)
NG行動	危険時以外は叱責しない。 「大丈夫?」「どうした?」等と柔らかく関わり、関心を示し、肯定的、共感的に接する。 →マイナス行動を強化せず、心情の言語化を図る。
破壊、傷害行動	毅然と即対応。(叱る、止める、離す、移動する)
避難所	1対1で寄り添い続ける人を確保する。交代してもよい。
帰室時、下校時	通常・予防行動ができたことを確認し褒める。 できなかったこと、NG行動には触れない。→プラス行動の強化

### 4. SCの見立て

行動の理由…「自分に興味を持たせる方法」としての注目行動。幼少時の未学習。

脳の発達…「我慢・待つ」等のコントロールができるまで脳が成長していない状態。

学習と成長…心が整えば自然と勉強に向かう。勉強は二の次、心への介入を優先する。



学校全体で子どもの育ちの補完となるよう「肯定的な養育環境」を提供すること



学校訪問等に際してご協力をいただきました皆様に深く感謝申し上げます。学校問題サポートチームは、少しでも先生方、子ども達のお力になればと願っております。来年度も、学校支援でお役に立てそうなことがありましたら、管理職をとおしてお知らせください。